

地質情報展2008 あきた 体験コーナー「石を割ってみよう」

工藤 崇¹⁾・小笠原正継¹⁾・竹内 圭史¹⁾・西岡 芳晴¹⁾・青矢 睦月¹⁾・高橋 裕平²⁾

はじめに

2008年9月19～21日, 秋田市民交流プラザALVEで開催された「地質情報展2008あきた」において, 体験コーナー「石を割ってみよう!」を開設しました。このコーナーは, 一般の人達に実際に岩石をハンマーで割ってもらい, 割った岩石をお土産として持ち帰っていただくという企画です。来場者の皆様からは毎年好評をいただいております。今や情報展の看板コーナーの1つと言っても過言ではありません。今回はこのコーナーの準備から当日の様子と, 石割り人気ランキングの集計結果についてご報告します。

準備した岩石

今回は合計15種類の岩石を準備しました(第1表)。岩石は毎年人気のある岩石を考慮しつつ, 堆積岩, 火山岩, 深成岩, 変成岩, 鉱石を一通りそろえました。「石を割ってみよう!」では, 毎年開催地の都道府県産の岩石を準備しており, 今回新たに秋田県産の岩石をラインナップに加えました(第1表)。秋田県産の岩石は, 珪藻土, 安山岩, パーライト, 軽石凝灰岩(ゼオライト), 花崗閃緑岩の5種類です。花崗閃緑岩は著者の一人(小笠原)が現地で採取してきたもので, 他の岩石は秋田県内の鉱山会社および採石会社において提供していただいたものです。

会場の様子

会場ではまず, お客様の呼び込みから始まります。子供のお客様に「石を割ってみない?!」と誘いかけると, 9割方は「やりたい!」と言って来てくれます。お客様にはまず, 陳列された15種類の岩石か

第1表 準備した岩石の一覧と人気ランキング。

分類	岩石名	産地	配布数	順位
堆積岩	泥岩	青森県七戸町	30	
	砂岩	新潟県糸魚川市	30	
	石灰岩	滋賀県米原市 伊吹鉱山	42	
	珪藻土	秋田県北秋田市 鷹巣	44	
火山岩	玄武岩 (火山弾)	静岡県富士宮市	51	8
	安山岩	秋田県男鹿市	42	
	パーライト	秋田県北秋田市 米内沢	45	10
	黒曜岩	北海道紋別郡 白滝村	200	1
深成岩	軽石凝灰岩 (ゼオライト)	秋田県能代市 二ツ井	64	5
	かんらん岩	北海道様似町幌満	85	3
変成岩	花崗閃緑岩	秋田市岩見三内	97	2
	蛇紋岩	長野県伊那市長谷	52	7
鉱石	珪質片岩	高知県土佐町	50	9
	マンガン 鉱石	栃木県日瓢鉱山	75	4
	石炭 (亜瀝青炭)	北海道美唄市 三美炭鉱	56	6
合計			933	

ら好きな石を選んでもらいます。お客様の大多数は小学生以下の子供達とその親御さんです。好きな石を選んだら, 次に怪我をしないように軍手とゴーグルをしてもらいます。そして, 木の棒とビニールでできた「石割り場」の中で実際に石を割ってもらいます(写真1)。上手く割れないときにはスタッフがサポートします。場合によってはスタッフがまず小さく割って, 割

1) 産総研 地質情報研究部門
2) 産総研 東北産学官連携センター

キーワード: 地質情報展2008あきた, 石割り, 岩石, 体験コーナー, 普及活動



写真1 石割りに挑戦する参加者。



写真2 順番を待つ参加者の列と大忙しのスタッフ。

りやすくしたものを割ってもらうこともあります。黒曜岩に関しては破片が鋭く、飛び散ると怪我の元になりますので、厚めのビニール袋に入れた状態で割っていただきます。石が割れたら、岩石片を1つ選んでもらい、ラベルと一緒にビニール袋に入れて記念品として持ち帰っていただきます。ラベルには岩石名と産地のほかに、簡単な解説が書いてあります。数人が石を割って会場内にハンマーの打撃音が響き渡ると、それを聞いて次から次へとお客さんがやってきます。そうなればしめたものです。しばしば大盛況となり順番を待つ長蛇の列となります(写真2)。ほとんどの子供達は夢中になって楽しそうに石を割ります。スタッフは大変ですが、満足してくれる様子を見てると非常にやりがいを感じます。

人気ランキング

後日、最初に用意したラベルの数と残ったラベルの数から、各岩石の配付した個数を集計しました(第1表)。配付した石の合計は933個でした。これらの配付個数から岩石の人気ランキングをつけてみました(第1表)。第1位は黒曜岩で、他の石と比べると桁違いです。黒曜岩は毎年No.1にランキングされており、もはやその人気は不動のものです。ところが第2位以下は予想外でした。第2位は花崗閃緑岩でした。花崗岩系の岩石が上位にランク入りすることはこれまであまりなかったことです。黒色の角閃石、白色の斜長石、透明な石英が構成する美しいモザイク模様が受けたのでしょうか? 秋田市に近い太平山の石だった

からかもしれません。第3位はこれまた意外なかんらん岩でした。きれいな緑色をしているのが受けたのでしょうか? スタッフにとっても堅くて割れにくい石なのに、子供達は次々にかんらん岩に挑戦していました。このような石を選ばれるとスタッフはハラハラものです。

おわりに

今回も多くの参加者に楽しんでいただき、大変盛況で終えることができました。このコーナーは、難しいことは抜きにして、石を割るという作業を体で体験し、楽しんでもらうことに意義があります。その後、持ち帰った岩石を眺めたり、説明を読んでみたりして、岩石そのものに興味を持ってもらえると、さらに担当者冥利に尽きます。今後もできるかぎり魅力ある体験コーナーとして、スタッフ一同努力していきたいと考えています。

最後に、岩石試料を提供いただいた中央シリカ株式会社、株式会社吉政石材、昭和化学工業株式会社、東北ゼオライト鉱業株式会社の関係者各位、また会場での準備・運営にご協力いただいた全ての方々に深く御礼申し上げます。

KUDO Takashi, OGASAWARA Masatsugu, TAKEUCHI Keiji, NISHIOKA Yoshiharu, AOYA Mutsuki and TAKAHASHI Yuhei (2009): "Let's Hammer Rocks": the special sections in the Geoscience Exhibition in Akita 2008.

<受付: 2009年3月3日>